

令和 8 年度

第 2 回神奈川県公立高等学校設置者会議

会 議 録

- 1 日 時 令和 8 年 9 月 4 日（金）
15 時 30 分～16 時 20 分
- 2 場 所 神奈川県庁本庁舎大会議場
- 3 出席委員 黒岩 祐治、工藤 誠一、田沼 光明、柏木 照正
竹内 博之、飯島 奈津子、木村 昌彦
本間 健志、花田 忠雄、篠田 寛、大東 洋樹
丹羽 正昇（横浜市教育委員会事務局学校教育部長）
細見 勝典（川崎市教育委員会事務局学校教育部長）
北川 貴章（横須賀市教育委員会事務局学校教育部長）

事務局（私学振興課長）

それでは定刻となりましたので、ただいまより、令和8年度第2回神奈川県公立高等学校設置者会議を開催させていただきます。

事務局の神奈川県私学振興課長、田中と申します。どうぞよろしくお願いします。

本日はご多用の中、お集まりいただきありがとうございます。会議に入ります前に、今年度、委員の交代がありましたので、事務局より、新たな委員3名を御紹介させていただきます。

委員構成につきましては、会議資料の「資料1」を御参照ください。

まず、横須賀市教育委員会教育長 生田 研一 委員です。本日は北川 貴章 学校教育部長に代理出席をいただいております。

次に、神奈川県福祉子どもみらい局長 本間 健志 委員です。

次に、神奈川県教育委員会教育局指導部長 大東 洋樹 委員です。

また、他に代理出席いただいている方もいらっしゃいますので、御紹介します。

横浜市教育委員会教育長 下田 康晴 委員の代理として、丹羽 正昇 学校教育部長にご出席いただいております。

川崎市教育委員会教育長 落合 隆 委員の代理として、細見 勝典 学校教育部長にご出席いただいております。

また、本会議の主宰者の黒岩知事ですが、所用により途中からの出席とさせていただきますので、御了承願います。

取材及び傍聴人についてですが、この会議は原則公開としており、既に報道関係者席及び傍聴席に御案内していますので、併せて御承知おきください。

また、本日の会議資料とは別に「かながわ定時制・通信制・高校教育を考える懇談会」から、本会議の主宰者である知事あてに要請文書が提出されました。机上に文書の写しをお配りしていますので、御確認ください。

それでは、開会にあたり、座長の選出をお願いしたいと思います。

本会議の座長につきましては、会議の発足当初から、神奈川県において私立学校を所管する福祉子どもみらい局長が座長を務めさせていただいていることを踏まえ、慣例に倣い、福祉子どもみらい局長である本間局長をお願いしたいと思います。

全員

（異議なし）

事務局（私学振興課長）

それでは、座長には本間局長を選出することとし、進行をお願いしたいと思います。

ます。本間局長よろしく申し上げます。

福祉子どもみらい局長（座長）

改めまして、神奈川県福祉子どもみらい局長の本間でございます。座長を務めさせていただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、早速議事に入りたいと思いますが、先ほど事務局から案内がありましたとおり、知事は途中からの出席となりますので、次第の順番を入れ替えて、まず、「2 報告事項」の方から入り、その次に「1 議題」の順に進めさせていただきたいと思っております。

なお、終了見込み時刻は、16 時 20 分頃を予定しています。

それでは、「2 報告事項」の「公私協調事業『神奈川の高校展 2026』」について、事務局から説明をお願いします。

事務局（私学振興課長）

<資料 4 により説明>

座長

ただいま事務局から説明のありました「神奈川の高校展」ですが、平成 18 年度から始まりまして、今年で 21 年目を迎え、歴史のある事業だというふうに入っているところです。中学生の高校選びのための事業として、定着してきたということで、これもひとえに、学校関係者の皆様の御協力と御尽力によるものです。ありがとうございます。

今回の「神奈川の高校展 2026」の開催に当たり、それぞれの学校現場等で、留意した点や、工夫した点等がございましたら、ぜひこの場で御発言をお願いできればと思っております。本日、皆様にご参加いただいておりますので、恐縮ですが、私から順番に御指名させていただきたいと思っております。

それでは、まず神奈川県教育委員会から御発言をお願いできればと思います。

大東委員

事務局から説明のあったとおり、「公私合同説明・相談会」、そして「全公立展」、無事に終了しているところです。

特に、「全公立展」は、県立高校、市立高校が一堂に会し、約 4 万人の方に御来場いただきました。当日は、高校に在籍する生徒が多く参加し、各高校のブースでは、それぞれが創意工夫を図り、中学生並びに保護者向けに、各高校の魅力や特色をアピールする場になるとともに、来場者の皆様から大変な御好評をいただき、イベントのニーズの高さを感じたところです。

また、「公私合同説明・相談会」は、どの会場も多くの方に来場していただきました。

熱中症対策として、予定時刻よりも前倒しで開始する、待機列を室内にするなど、各会場の運営に当たって工夫をしていただいたところもあり、混乱や大きな事故はなく、無事に終えることができました。

今後も様々な知恵を出し合いながら、公立、私立が協調してさらなる事業の充実を図って参りたいと考えております。私からは以上です。

座長

ありがとうございます。特に「公私合同説明・相談会」は暑い時期に実施しているということもありまして、前倒しでの開催など、いろいろ工夫をされているのだなというふうに聞いておりました。ニーズが高いというのは、我々にとっても嬉しいお話かと思いますので、よい取組みになっているのかなというふうに思っております。

続きまして、私学の委員の皆様から御発言をお願いできればと思います。

竹内委員

私立中学高等学校協会の竹内から御報告させていただきます。

まず、7月20日の海の日に「神奈川私学高校展」をパシフィコ横浜で開催しました。入場者が初めて4万人を超え、「神奈川私学高校展」の歴史の中で最も多い入場者を集めることができました。少子化が進行しているとはいえ、こんなに集まってくれたのかと大変嬉しく思っているところです。

「神奈川私学高校展」では、Bホールという比較的大きなホールを待機スペースとして借り、炎天下の待機列を少しでも避けようと考えておりましたが、時間帯によっては、最寄り駅の付近まで待機列が伸びてしまう時間帯もありました。こういった入場の待機列には、さらなる工夫が必要だと思っております。しかし、4万人という過去最大の人数が来場し、手ごたえを感じているため、来年度もこの数字を維持したいと考えております。年々、私立学校の人気が高まっていると思っております。

「神奈川私学高校展」の内容としましては、私立高校のうち、高校から募集を行っている60校がブースを出展しました。それから、意外と人気だったのが、制服の展示スペースでして、ここに長蛇の列ができるということがありました。また、学費支援制度等の個別相談会場を設けるとともに、2階のアネックスホールにおいて「神奈川の高校入試」というテーマで講演し、神奈川県私学振興課による学費支援についての説明と併せて、計3回の講演を行いました。「神奈川の高校展」という名前ですので、高校入試という全体的なテーマで講演を行いました。

て、公立の入試についても同じように分け隔てなく話したつもりでございます。4万人を超える入場者が来場されましたので、来年度もこのような形でやっていきたいと考えております。

また、県内12会場で行われた「公私合同説明・相談会」については、回を重ねるごとに公私が協調してきており、非常に良いイベントになってきたと思っております。ただ、各学校のブースの配置や展示の仕方、誘導方法などが会場で異なるため、複数の会場に参加している受験生や保護者が多少戸惑う面もあったというような報告も受けております。

そして、12会場のうち1会場のみ、業者委託による運営という形をとっていることが、私学側としてはとても気になっております。他の11会場と同様に、業者を介さず、公立と私立が協力して準備運営する方が、費用面も抑えられ、また公私間の垣根がさらに低くなり、結果としてさらなる公私協調につながるのではないかと私学側では考えております。

とはいえ、広域通信制高校との違いをアピールできる、とてもよいイベントだったと思います。これからも公私が協力し合いながら、これらのイベントを盛り上げていきたいと考えております。

私からは以上です。

座長

竹内委員、ありがとうございました。私もここ4、5年ほど、毎年「神奈川私学高校展」に出席させていただいていますが、熱気のすごさに毎回圧倒されており、非常によいイベントだなと思っております。先ほどお話がありました、人気がありすぎて列が駅の方まで延びてしまうというのは、なかなか難しい話だとは思いますが、こういったところも工夫していただき、今後の運営に反映していただけるのかなと思っております。

竹内委員

「全公立展」については、開催時期が梅雨時でそんなに気にならないとは思いますが、「神奈川私学高校展」は毎年7月の海の日という炎天下での開催となるため、来年に向けてまた工夫しながら準備していきたいと思っております。

座長

この点については、昨今の私立高校の人気の高さの裏返しだと思いますので、嬉しい悲鳴ということで捉えてよいのではないかなと思っております。

続きまして、横浜市様、よろしくお願いいたします。

横浜市 丹羽学校教育部長

中学校３年生、そして保護者の皆様方に高校を知っていただく大切な機会として、「全公立展」及び「公私合同説明・相談会」が今年度も実施できたことは、大変有意義であったと考えております。

まず、「全公立展」では、各校のブースにおきまして、学校の特色や魅力を効果的に伝える様々な工夫がなされていたと思っております。パネル展示やモニター、プロジェクターを活用した学校紹介などにより、来場者の皆様は短時間で必要な情報を得るとともに、学校の雰囲気についても感じていただけたのではないかと思います。また、各校の生徒が、教職員とともに、来場者や学校の魅力や特色を熱心に伝えている姿が、大変印象的でした。生き生きとした先輩たちの様子を目の当たりにすることで、中学校３年生の皆さんにとって、高校生活への期待や進学後のイメージをより明確にする機会となったのではないかと考えております。

次に、「公私合同説明・相談会」につきましては、教職員によるスライドを用いた学校説明や学校行事等の動画上映など、それぞれの学校で工夫を凝らした取り組みが行われておりました。また、在校生が学校説明や個別相談に主体的に関わっておりまして、自らの経験や学校生活について、来場者へ分かりやすく説明している姿も見られました。中学校３年生にとっては、学校の特色や学習環境への理解を深めるとともに、高校生としての将来の自分の姿を具体的に思い描く貴重な機会となったものと考えております。各学校の個別相談ブースでは、来場者が直接学校関係者に質問や相談を行うことで、学校の特色や魅力について理解を深め、自らの進路について、まさに主体的に考える有意義な機会となったものと受け止めております。今後も、中学生や保護者の皆様が安心して進路の選択ができるよう、このような機会の充実が図られることを期待しております。

以上でございます。

座長

横浜市様、ありがとうございました。先ほどお話にありました、生徒自らが魅力を伝えている姿というのは、中学生にとっては、やはり先輩がそうした姿を見せてくれているということが、我々大人が言葉で伝えるよりも、違う形で伝わりやすいというところがあると思いますので、非常によい取り組みとして保護者の皆様方にも伝わっているのではないかと聞いておりました。

続きまして、川崎市様、よろしくお願いします。

川崎市 細見学校教育部長

「全公立展」では、県内の公立高校が一堂に会しまして、例年と変わらず多数

の来場者を迎えて行われました。各高校のブースにおきましては、職員に混ざって高校生が自分の高校の魅力を一生懸命発信している姿がとても印象的で、中学生やその保護者も熱心に聞き入っておりました。今年は「全公立展」の問い合わせが例年よりも多く寄せられておりまして、このイベントへの受験生側からのニーズの高まりも感じたところでございます。

また、川崎地区の「公私合同説明・相談会」では、2,800人以上の来場者がありまして、今回初めて利用させていただきました専修大学生田キャンパスの会場も大変美しく整備されており、各校のブースも広く取ることができました。入場の待機列も、空調の効いた場所を確保することができ、大変良い環境で行うことができました。配置図を片手に、真剣な面持ちで目当ての学校のブースへ向かっていく中学生の姿がとても印象的でした。

今後も、公私が協調し、さらなる事業の充実を図ってまいりたいと考えております。

以上でございます。

座長

川崎市様から御報告をいただきました。いろんなブースを回る中学生たちの姿が目につくようで、印象的だという点については、私もきっとそうなんだろうなと思いました。緑豊かな環境の専修大学を会場として利用させていただいたことで、きっと中学生たちも、高校のその先の進路についてイメージできたのかなと思って聞いておりました。ありがとうございました。

続きまして、横須賀市様、お願いいたします。

横須賀市 北川学校教育部長

昨年度に引き続き、今年度も「全公立展」及び「公私合同説明・相談会」が無事に開催できたことを嬉しく思っております。また、地区ごとに開催されました「公私合同説明・相談会」につきましては、横須賀三浦地区では横須賀総合高等学校を会場として、8月7日に無事に開催することができました。今年も非常に暑い中の開催となりましたので、熱中症対策として、昨年度と同様に入場待ちの方々の待機場所を構内に設けるという対応や、入場を10分早めるといった対応を行ってまいりました。また、救護室の体制も整えて、緊急時に備えて万全の準備を行ってまいりました。参加された高等学校は、パネルや掲示物、プレゼンテーションや動画を用いて、それぞれの短時間で自校の様子を説明されており、各学校の特色を存分にアピールされていたのではないかと思います。

また、教員に加えて在校生が説明を担当したり、中学生の相談に応じたりという場面も見られるなど、各校それぞれの個性を発揮されていたのではないかと

感じております。参加された中学生からは、一つの会場で多くの学校の様子を知ることができるとてもいい機会であった、より具体的に高校生活をイメージできたといった声も寄せられております。「全公立展」及び「公私合同説明・相談会」は、各高校の特色を中学生や保護者の皆様に直接知っていただける機会として、とても有意義なイベントだと思っております。

中学校に確認したところでは、生徒が各学校の情報を得る際には、やはりイベント当日に配布されるような高等学校が作成する広報資料や、ホームページがとても重要な情報源になっているということです。本市の所管している横須賀総合高等学校におきましても、ホームページの更新を行い、最新の情報を発信するように努めております。

以上でございます。

座長

横須賀市様、ありがとうございました。在校生の方が直接相談に乗られていたということで、やはりそういった生の情報が一番響くこともあると思います。また、イベント会場に行った後、直接関心のあるところに行ってみたいなど、そういったきっかけにもなるかと思いますので、非常によい取組みをされたのではないかと思います。

皆様から一通り御発言をいただきました。それぞれのお立場で御苦労いただいたことと思います。今後とも、様々な工夫をしていただきながら、当事者である中学生が、自分の希望に合った学校を見つけられるよう取り組む必要があるということを改めて実感しました。

本日いただいた御意見につきましては、「神奈川の高校展実行委員会」にお伝えしたいと思います。

報告事項については、以上でございます。

続きまして、次第の「1 議題 令和9年度の高等学校生徒入学定員計画の策定について」に移らせていただきます。

初めに、神奈川県公立高等学校協議会における、定員協議の結果について、協議会の座長である私学振興課長より報告をお願いします。

事務局（私学振興課長）

<資料3により説明>

座長

知事が到着しましたので、ここからの参加とさせていただきます。

それでは、これより意見交換に移らせていただきます。

令和9年度の高等学校生徒入学定員計画の策定について、公私立高等学校協議会の報告があったところですが、御意見をお願いしたいと思います。

まず、私立学校側の委員から御意見いかがでしょうか。

竹内委員

今年の実際の入試結果を振り返りますと、定員目標 14,950 人に対して、県内の私立高校への入学者は残念ながらマイナス 8 人となり、わずかに目標に届かない結果となりました。しかし、県外からの入学者や留学生を合わせると 15,998 人の新入生を迎えることができまして、結果的に募集定員の 15,050 人を 948 人上回ることができました。募集定員に対する入学者の、いわゆる充足率が 106.3% であり、これは首都圏ではトップレベルとなっております。首都圏全体を見ても、神奈川県はかなり高校への充足率が高かったのが今年の結果です。これらの結果から、私学側は自信を持って協議会の場に臨むことができました。来年は 1,600 人ほど中学校 3 年生が減るということ、それから全日制進学率をできるだけ 90% に近づけることを考慮に入れながら、公私間で慎重に協議を重ねて、今日のこの日を迎えております。

私学の方は、各校の魅力がだいぶ広報されてきたこと、それから学費支援がかなり充実したこともあり、今年新たに作った 14,900 人という目標は十分クリア可能な数字だと思っています。こうしたことを踏まえ、秋からの説明会でも広報していこうと思っています。秋からは公私各々が全日制進学率の向上を目指して、それぞれの定員目標を超えるように努力していきたいと思っています。

私学からは以上でございます。

座長

続いて、神奈川県教育委員会からお願いいたします。

花田委員

今、竹内委員から、私学はマイナス 8 人の結果だったというお話がありました。今年の公立は 1,547 人目標に達しなかったということでありました。来年の公立の中学校の卒業予定者数は、今年からさらに 1,600 人近く減るということで、この間のいわゆる高校の授業料無償化の動きや、昨年の傾向などといった点も勘案しながら、協議会で議論していただきました。公立は今年から 1,550 人の減、私学では 50 人減ということで目標が設定され、このたび提案をいただいております。県教育委員会として、これについては異存ございません。

こうして公私で協議をして、定員目標を共有する仕組みは、本県のひとつの特

色であると考えています。引き続き、公私が協調して、それぞれの特色を生かしていきたいと考えております。また、定員計画策定の2ページにございますとおり、公立の役割というのは、生徒一人ひとりの希望と適性に応じて、多様な選択ができるよう、幅広い進路先としての役割を担い、県民のニーズに応えることだということをお互い確認しております。私たちはこの考えに基づいて、引き続き学校づくりに尽力してまいりたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

工藤委員

今、公私ともに今回の協議がまとまったということがありましたが、この報告の中に、4ページの昼間の時間帯で学ぶ進学率の活用ということがございます。

やはり、昨今の状況を見たときに、広域通信制高校の存在感というのは非常に大きい。なぜ全日制進学率を90%前後として維持する目標を設定しているかと言いますと、かつて通信制高校、あるいは定時制高校に行くと、卒業するのに4年かかるというのがありました。それが今、広域通信制高校も3年で卒業できるようになり、そこで大きく潮目が変わったということがございます。実際、広域通信制高校に進学した生徒は昼間に登校しているわけです。

同時に、広域通信制高校に通う生徒が経済的に困窮しているかということ、実際には、高校の授業料が無償化したと言いましても、広域通信制高校に授業料を払い、さらにはサポート校にも二重で払っているという実態がございます。

表面的には、広域通信制高校は不登校の子が行くものだという解釈で取られていますけれども、それは全く違っておりまして、ひとつのビジネスモデルとして確立してしまっているということがございます。その部分で、広域通信制高校は本当に教育機関なのかという危惧を、私たちは教育現場にいる者として持っています。募集時期にしても、8月や9月には既に合否結果を出してしまっているという実態がございます。

さらに、広域通信制高校には大勢の生徒が在籍しておりますが、生徒の卒業後の進路がどうなったかということが学校側でもしっかり把握されておられません。文部科学省が実態を初めて調査したところによると、実際には、卒業生の26%がどこに行っているか、進路が分からない。また、非常に生徒の出入りが激しく、その過程の中で中退した子たちもいっぱいいるわけですが、広域通信制高校を入学したり退学したりしているというのに、学校側ではやはり分からない。一応卒業できた子たちのうち、4分の1近くの割合の進路先もどうなったか分からないという現状があるわけです。

やはり、これだけのことになっておりますので、どのような形でもって卒業後の進路などをきちっと把握していくかということを考えていかなければいけない

と思います。広域通信制高校は、昨今増加している不登校の子たちのための救済というふうに捉えられがちですけれども、結果的には、年々生徒を増やして、極端な話が売り上げを伸ばしているわけです。ですから、多くの予備校が広域通信制高校に参入しているという現状になっているのではないかなというふうに思っています。

ですから、これだけ考えてみれば、通信制高校に進学している7.6%を足すと、全日制進学率というのは、それだけで100%に近いところまで到達するという現状であります。

極端なことを言いますと、広域通信制の広報を担当している人たちは、広告会社の人たちであることがほとんどです。なので、非常に広報がうまいんですね。ですから、生徒も保護者も広域通信制高校に行くと素晴らしい、バラ色の学校生活が待っているというふうに思ってしまうのですが、実際は、卒業後、4分の1近くの生徒が何をしているか分からないという現状なんです。

これが、少なくとも広域通信制高校でも可否を発表するのを2月以降にします、ということになると、この状況が大きく変わるわけであります。

こうした現状を鑑みるに、公立の場合は、かなりやることが限られてくるのではないかと思いますので、やはり、制度のようなものを整備していくことから考えていくべきかと思います。広域通信制高校の存在感が増してきたからこそ、規制ということではなく、学校教育の秩序を保っていくということが何より大事で、そのためにも、神奈川県がどうあるべきか、こうした公私の協調の中で、神奈川県が全国におけるリーディングケースを作っていくことが肝要かと私は考えています。それが、やはりこの定員協議と同時に、公私が集まって協議することの有意義な部分ではないかと思っております。こうしたことも考えていかなければいけないと思います。

サポート校はどうしても首都圏に多く設置されていますから、神奈川県でも広域通信制高校に進学している割合も高くなっています。やはり、県民の子弟がきちんと教育を受けられる、そして将来につながっていくということに対して、たとえ神奈川県が認可している広域通信制高校が県内にないとしても、どのようなものであるかということを考えていくことが、県民の子弟のために公私が担っていくことではないかな、そんなふうに私は感じております。あえて発言させていただきました。

座長

工藤委員、御指摘をありがとうございました。県民目線で、という御意見をいただきました。こういった形で、今いただいたような御意見を公私の中で議論していくということは、非常に有意義なことだと私も思っております。

それでは、横浜市様、お願いいたします。

横浜市 丹羽学校教育部長

結論から申し上げますと、入学定員計画につきましては、十分な協議がなされた数字であり、妥当であると私どもも考えてございます。

ただ、今後、県内の公立中学校卒業生数は減少し続ける見込みでありまして、また工藤委員の御発言の中にありましたとおり、広域通信制への進学率も増加してきている状況で、目標設定自体は大変難しいところではございますが、これまでどおりというよりも、公私が一層協調しながら、それぞれの立場と責任の上におきまして、全日制高校への進学率のさらなる向上に向けて、さらなる努力をしていくことが重要であると考えてございます。横浜市立高校におきましても、各学校の特色を生かした教育を充実させていくように、最大限努力してまいりたいと考えております。

座長

続いて、川崎市様、お願いします。

川崎市 細見学校教育部長

今、お話がありましたとおり、中学生の進路の多様化というものが年々進んできていると感じているところでございます。川崎市も、今まで東京都内の私立高校を受験する生徒が多かったことに加えまして、広域通信制高校で、来年4月に川崎市内にサポート校を開校する学校も複数あるようでございます。とはいえ、県外の高等学校を受験する生徒数にも、今後も注視していく必要がございますので、公私で協調して、全日制進学率を概ね9割に設定するという目標に対して、適正な定員設定がなされていると考えております。

座長

それでは、横須賀市様、お願いします。

横須賀市 北川学校教育部長

県内の高等学校の全日制への進学者については、若干の増減はあっても、長期的には減少期に入っていると認識をしております。今後の少子化の影響により、県内の公立中学校卒業生数は減少が続くと想定されます。また、生徒の進路選択が多様化している状況でもあります。公私それぞれが責任を持って十分に協議を重ねた上で計画されたものですので、入学定員計画の目標設定については、横須賀市としては妥当なものであると考えております。令和8年度の横須賀

市内の中学生は約 8,000 名前後となりますが、令和 12 年度にはこれが 7,300 名前後まで減少すると見込んでおります。このような状況の中で、本市が所管しております横須賀総合高等学校でも、その特色をより多くの生徒や保護者の皆様に周知するとともに、生徒一人ひとりの希望に寄り添った教育ができるよう、今後取り組んでまいりたいと考えております。

座長

それでは、学識者の委員からも御意見を頂戴できればと思います。では、飯島委員からお願いします。

飯島委員

神奈川県弁護士会の弁護士の飯島でございます。今、少子化が現象として明らかなか中で、適正な定員というものを設定するということの難しさというものを改めて認識させていただきました。また、それから度々御指摘がありますように、進路の多様化というところで、私も実際自分の仕事の中で出会う御家庭のうち、広域通信制高校に通っているお子さんが、行ったとか行かないとか、ドロップアウトするとか、そういう話を頻繁に耳にするようになりました。それがたまにではなくて、最初に聞いたときは、そういう学校があるのかなと思って様子を見てみますと、先ほど工藤委員から御指摘があったように、これは学校なんだとびっくりするような学校のホームページが出てきて、学校と言っても、今は本当にいろいろになってきているんだなと思いました。また、そこが社会からニーズがあるという心理的なところを非常にうまくついてきて、その実態がどうなっているかというところと、何となくインターネットの世界で見たものと少し違うような話なども、身近なケースで聞くこともありました。全部のケースがそうだとはい分かりませんが、そうなってくると、やはり、歴史を持っており、私学の建学の精神や、また公立学校の役割というものを肝に銘じながら、知見を持って教育に当たってきた教育機関や学校の努力や取組みを、ぜひ緩めないでいただきたいと思います。

生徒の進路希望というものは、時とともに移ることがあって、進路希望の調査をして、時間が経ったらまた違う希望をしているかもしれないので、その希望がなるべく真摯である限り叶うようにと思うのですが、結局、入学した後にはここよかったと思えるような、そういう場であってほしいなと思います。今回、いろいろと真摯に、難しい社会情勢も踏まえて検討していただいた結果だと思いますので、本日出てきたこの案に関しては、非常によく考えられたものだと感じました。

座長

それでは、木村委員からお願いします。

木村委員

ただいま御報告、御説明いただきました令和9年度の高等学校生徒入学定員計画について、異存はございません。中学校卒業者数が長期的な減少期に入っている中において、公私がそれぞれの役割と特色を生かしながら、生徒一人ひとりの希望や適性に応じた進路を確保していくことが何より重要であると考えます。そして、全日制進学率に加え、生徒の進路選択の多様化を踏まえた昼間進学率を活用することは、現在の教育環境に即した取り組みであると考えています。

と、考えていたところですが、先ほど工藤委員から様々な御説明があったように、問題はやっぱり中身の検討、これが必要なかなと思っています。大学でも最近データサイエンスがものすごく流行りなのですが、データだけだと数字で終わってしまいます。データを分析・解析して、それをどう解釈していくか、ここの取組みが今後ものすごく必要なのかなと思っています。数字だけではなくて、その中身の解釈ということが重要かなと思っています。今後も公私協調の精神のもと、経済的な課題や不登校経験など、様々な事情を抱える生徒を含め、誰もが安心して学んで、希望する進路を実現できる、そういった環境づくりということが重要だと思っています。これまで様々な議論、会議等を進めていると思いますが、合意に向けて丁寧に御協議いただきました関係者の皆様に心より感謝を申し上げます。

座長

ただいま皆様から様々な御意見をいただきました。

皆様からの御意見も踏まえまして、令和9年度の高等学校生徒入学定員計画の策定につきましては、本会議として協議成立ということによろしいでしょうか。

全員

(異議なし)

座長

それでは、協議成立とさせていただきます。

なお、定員計画のうち、公立高校の定員につきましては、今後、教育委員会に諮って正式に決定することになりますので、御承知おきください。

以上で議事を終了させていただきますが、主宰者である知事から御発言をお

願いいいたします。

黒岩知事

所用により、途中からの出席となりましたことを心よりお詫び申し上げたいと思います。「神奈川県公立高等学校設置者会議」において、大変、熱心な御議論をいただき、誠にありがとうございます。

この設置者会議ですけれども、私立高校と公立高校の代表者、有識者の皆様が一堂に会し、神奈川の教育の向上を図るため、公私が協調して翌年度の入学定員の目標等を議論する、大変有意義な場であると考えております。

そして、令和9年度の定員計画が、ただいま正式に合意されましたことは、公私双方の信頼関係が築かれているからこそだと、主宰者として感謝申し上げます。

来年3月の本県の公立中学校卒業生は、10年前と比較して5,000人も減少する状況となっています。今回の定員計画では、こうした卒業生の減少を踏まえつつ、これまでの取組みによる成果等も考慮し、公私それぞれが、自らの責任において実現を目指す定員目標を掲げていただきました。

この目標が、実現されると、全日制進学率は概ね89.5%に達することが期待されます。先月発表のあった総務省調査によれば、本県の人口は5年連続の減少となり、少子化がますます進行する状況となっています。こうした厳しい時代の中でも、公私が協力し合いながら、未来を担う子どもたち一人ひとりの目線に立って協議することは大変有意義であり、本日、令和9年度の定員計画について合意に至ったことに対し、皆様には心から感謝申し上げたいと思います。

高校の授業料への支援について、令和6年度に東京都が先行して補助対象の所得制限を撤廃した際には、都道府県の財政状況で支援に格差が生じることがないように、私も国に強く要望し、その結果、国がそれに応え、今年度からいわゆる高校無償化が実現いたしました。引き続き、国の動向を注視しながら、新たな公私協調の形を模索していきたいと思いますので、皆様の御尽力を賜りますようお願い申し上げます。

先ほど工藤委員からもお話がありましたが、今、教育の世界というのは、また何か新たな状況が生まれつつあるのかなということを感じております。広域通信制高校が伸びてきているという現状があるし、例えばフリースクールという、私も実際見学に行きましたが、学校には行けないけれども、そこには行けて生き生きと学んでいる子たちがいるという、こういった現象というのは何なのかなということですね。

これは従来の枠組みの、新たな教育の姿というものの中で、ある種捉えきれないものが、そこに新たな変化というものを生みつつあるのかなということ

ちょっと感じた次第でありました。

ただ、それが一体どういうものなのかといったことの実態も、なかなかよく分からない。様々なものがきつとあるでしょうし、なかなか分からない。しかし、何か新たなものが蠢（うごめ）きつつあるなといったこと、時代の変化といったものを我々はやっぱりしっかりと見据えて、これからの議論をしていかなきゃいけないなというふうに思った次第でありました。

その中で、やっぱりあくまで生徒目線に立った、そういった教育のあり方はどういうものなのかといったことを、どこか頭の片隅に置きながら、この新たな時代に対して、まさにこの神奈川県が培ってきた公私協調といった流れの中で、どう対処していくのかといったことを、これからの大きな課題として、受け止めていっていただきたいなと思った次第でありました。

皆様、誠にありがとうございました。

座長

それでは、以上をもちまして、令和8年度第2回神奈川県公立高等学校設置者会議を閉会させていただきます。本日は誠にありがとうございました。